

きのこ・ながさき



(アカダマキノガサタケ)

22

令和4年3月
長崎きのこ会

会長挨拶

長崎きのこ会 会長 山川 続

今年も月1回のペースで定例観察会を計画しましたが、新型コロナで3回中止、土砂災害で2回場所を変更しました。また、長崎県民の森主催事業「野生きのこ観察会Ⅱ」が新型コロナで中止になりました。県外でのきのこ観察を例年より控えたり、佐賀きのこ会と合同で開催する予定だった西日本きのこ交流会を延期したりと、今年も新型コロナに振り回された1年でした。しかし、観察会数は減りましたが、新たなきのこの出会いだけでなく、参加者との交流を楽しめた1年になりました。

定例観察会で観察した代表的なきのことして、アシボソアミガサタケ(3月、長崎県民の森)、オオセミタケ(4月、長崎県民の森)、ガヤドリナガミツブタケ(中止と知らないで来た人たちで実施、5月、長崎県民の森)、オオヤシヤイグチ(6月、長崎県民の森)、シロオニタケモドキ(7月、大村市“狸ノ尾ため池水源の森”)、大型カヤタケ属の一種(8月、諫早市・上山公園)、ヌメリアシナガイグチイグチ(仮称)(9月、諫早市・上山公園)、ハナサナギタケ(9月、長崎県民の森)、ヤマンバノカミノケ(根状菌糸束)(10月、長崎県民の森)などがありました。見たかったガヤドリナガミツブタケを結晶片岩の裏で参加者が見つけたのには、驚きました。

定例観察会以外では、シイトモシビタケ?、アカダマキノガサタケ群落、ウスキキノガサタケ、アミガサタケ大群落などを観察しました。

また、7月、NCC長崎文化放送「カメラマンレポート」の中で、長崎きのこ会の活動が紹介され、多くの人に知られ、大きな励みになりました。

観察会は日曜日を実施するので、平日のきのこ情報や継続的な観察報告が会員から得られることはとてもありがたいです。仕事をやめ、私も平日でも観察できるようになったので、身近なところでの観察や1日ごとの生長を観ることができました。今後、他の場所での継続観察が増えれば、県内のきのこ情報がさらに充実していくと思われます。

本会はきのこを探し、写真を撮り、時には食べて楽しむだけでなく、きのこを通して自然とふれ合い、仲間との交流を深めることに重きを置いています。そして、地域社会へ貢献することを願っています。

この冊子は令和3年の長崎きのこ会の活動を中心にまとめました。皆様のお役に立つことができれば幸いです。

目 次

令和3年 長崎きのこ会活動結果	
定例観察会(第1～10回)	2
【会員の広場】	
2021年を振り返る	前川 文雄 19
2021年に出会ったきのこたち	山川 続 19
長崎のきのこ写真展	
長崎ブリックホール	31
長崎県民の森「森林館」展示ホール	
令和4年 きのこ観察計画	31
友好きのこ会の会報・機関誌等	32
長崎きのこ会会則	32
長崎きのこ会役員	34
きのこの賑わい	35
